

第27回 千城台地区学校適正配置地元代表協議会「学校保護者代表分科会」 議事要旨

1 日 時 平成26年11月26日(水) 19時00分～20時50分

2 場 所 千城台公民館 1階セミナー室

3 出席者

(1) 委員 10人 *欠席 0人

(2) 事務局 5人 *教育委員会企画課

大崎課長、伊原統括管理主事、市倉課長補佐、小口主査、望月主査補

(3) 傍聴者 8人

4 報告・議題

(1) 【報告1】 前回協議会の概要について

(2) 【報告2】 前回協議会以降の動きについて

(3) 【議題1】 千城台地区の小・中学校の適正配置について

(4) 【議題2】 次回開催日時・場所等

5 会議資料

(1) 資料1：地元代表協議会における主な協議概要

(2) 資料2：協議の進め方

6 議事の概要

(1) 【報告1】 地元代表協議会における主な協議概要

事務局が、前回の協議会の協議結果について説明した。

(2) 【報告2】 前回協議会以降の動きについて

事務局：10月2日に行われた千城台西中PTA理事会に出席し、説明と質疑応答を実施

*各保護者代表による意見集約の報告

千城台南中：全校アンケートの結果「学年2クラスの状態になるまでは統合を見送る」

千城台西中：全校アンケートの結果「現状での統合は反対」が最多票。ただし、結果が3つに分かれ、PTAでは決められず行政の判断を仰ぎたい

千城台旭小：中学統合については当事者の意向を尊重すべき

千城台南小：2小1中

千城台東小：3小1中

千城台西小：中学校統合反対が6割強

千城台北小：学年2クラス程度になるまでは統合を見送る

(3) 【議題1】 千城台地区の小・中学校の適正配置について

中学校の統合について協議を行った。その結果、分科会として「現状での統合を見送る。ただし、今後、学年2学級程度になったら統合を考えていく」という方向性が大勢となり、統合を賛成する東小保護者と南小保護者が次回、この方向性について、意見を集約してくることとなった。また、中学校が2校のままを仮定し、小学校統合の組合せ(A案及び他案を含む)について検討してくることとなった。

(4) 【議題2】 次回開催日時・場所等について

次回協議会は、中学校統合の方向性を全体会で報告・協議を行い、合意が得られ、かつ小学校統合案も引き続き分科会で事前協議することの了解が得られた場合は、全体会終了後、分科会で小学校統合の協議を行うこととした。

日時は「1月28日(水) 19:00～」とし、場所は後日連絡することとした。

7 発言要旨

(1) 会長挨拶 (氏家会長)

冷たい雨が降る中、このように集まっていただき感謝する。今回は、コミュニティセンターの改修工事の影響で、大ホールが確保できず、いつもより狭い部屋で会議することとなったが、逆に濃密な協議ができそうである。中学校の統合に関して一定の方向性を決めて、それを前提に小学校の統合についての議論に入るというプロセスを踏んで、今日で2回目の分科会の開催となる。本日も具体的な議論を進め、中学校統合についての方向性を見出したい。PTA会長の皆さんにとっては、責任が重く大きなプレッシャーがかかってくるだろうが、各団体で事前事後の報告・確認を確実にしながら頑張っていたきたい。事務局においては、協議内容を丁寧にまとめ、今までの合意事項を整理した資料を提示するなどして、具体的な議論に生かせるようにしてほしい。それとともに、協議内容について協議会日より等を通じて、地域住民に確実に周知することをお願いしたい。本日も真摯な協議をよろしく願います。

(2) 報告

報告① 前回協議会の概要について

〈菅原議長〉 前回協議会の概要について、事務局から報告をお願いします。

〈事務局〉 資料1・2をご覧ください。前回協議会の協議結果について簡単に説明する。

〈第26回協議会〉

○中学校の統合について協議したが、「中学校統合の是非と課題」「統合する場合は適切な時期や統合校の配置」等について方向性が出ず、継続協議になっている。また、今日までにこれについて各団体の意見を集約し報告することが確認されている。

〈菅原議長〉 ただ今の報告で、質問がある方はお願いします。

〈一同〉 特になし

報告② 前回協議会以降の動きについて

〈菅原議長〉 前回協議会以降の動きについて、事務局から報告をお願いします。

〈事務局〉 前回の協議会の翌日10/2(木)に開催された千城台西中学校PTA理事会に参加させていただき、簡単な説明と質疑の対応を行った。その際の協議内容やそれを受けての西中の意見集約については、後ほど千ヶ崎委員から報告がある。

〈菅原議長〉 各学校保護者で意見集約をしてきた内容について、学校ごとに報告をお願いします。

〈笹川委員〉 南中では、前回の協議会後にアンケート調査を行った。中学校統合に関する設問では、「①なるべく早い時期に統合、②学年2クラス程度になるまで統合見送り、③統合に反対、④その他」の4つの選択肢とした。その結果「①45名、②49名、③19名、④1名」となった。また、小学校統合に関する設問では、「①協議会に一任、②中学校として意見をまとめる」の2つの選択肢とした。その結果「①64名、②28名」となった。南中としては「学年2クラス程度になるまで統合は見送る」という結論となった。

- 〈千ヶ崎委員〉 西中では、10月にアンケートを実施し、11/11（火）に集計結果を報告した。中学校統合に関する設問では、南中と同様に4つの選択肢とした。その結果「①70名（1年17名、2年30名、3年23名）、②85名（1年15名、2年38名、3年32名）、③77名（1年14名、2年30名、3年33名）、④20名（1年7名、2年7名3年6名）」となった。「①27.8%、②33.7%、③30.6%、④7.9%」となり意見が3つに分かれた。西中としては「行政の判断を仰がなければ、PTAとしては決定できない」という結論となった。
- 〈鈴木委員〉 旭小では、10/3（金）本部会、10/17（金）理事会、10/30（木）本部会、11/7（金）理事会の中で協議し、中学校統合については、「当事者でないとわからないので勝手に判断できず、中学校でまとめた意見を尊重する」という結論となった。
- 〈栗山委員〉 南小では、11/8（度）常任委員会で協議し、方向性は変わらず「2小1中」を希望することとした。
- 〈時松委員〉 東小では、11/2（日）本部会、11/9（日）役員会で協議し、以前と同様に「3小1中」を希望することとした。
- 〈大和久委員〉 西小では、10/2（木）理事会で40名弱の保護者が集まり意見をきいた。その結果6割強の保護者が中学校の統合反対という意見だった。また、小学校統合については、小中連携を柱とした統合を目指して協議するという事で意見がまとまった。
- 〈岡委員〉 北小では、10/31（金）アンケート実施、11/12（水）理事会でアンケート結果を協議、11/25（火）理事会報告書で結果を報告した。約80%のアンケート回収率で、中学校統合について「①すぐに統合14%、②学年2クラス程度になるまで統合見送り50%、③統合に反対20%」となった。北小としては「学年2クラス程度になるまでは統合を見送る」という結論となった。
- 〈菅原議長〉 各報告に対するの質問や意見は、このあと協議に入ってから質疑と合わせていただくこととする。

（3）協 議

議題① 千城台地区小・中学校の適正配置について

- 〈菅原議長〉 まず、事務局から説明をお願いします。
- 〈事務局〉 今回は、各団体の報告を踏まえて、「中学校統合の是非と課題」、「統合する場合は適切な時期や統合校の配置」等について協議をお願いします。また、その結論を前提に、小・中学校全体の適正配置について協議をお願いします。
- 〈菅原議長〉 それでは、先ほどの報告に対する質疑を含めて、ご意見・ご質問をお願いします。
- 〈氏家会長〉 「できるだけ早い時期に統合」という設問は、いつの統合を想定しているのか。
- 〈笹川委員〉 南中では、最短の時期である平成29年度以降を想定している。
- 〈千ヶ崎委員〉 西中では、具体的な時期は示さずにアンケートを実施した。
- 〈岡委員〉 北小では、最短時期は平成29年以降となるという資料を示してアンケートを実施した。
- 〈氏家会長〉 「学年2クラス程度になるまで統合見送り」という設問の主旨は何か。
- 〈笹川委員〉 南中では、学年2クラス程度になったら統合した方がよいという考えである。
- 〈千ヶ崎委員〉 西中では、学年2クラスはかなり具体的だが、そこまでいなくても統合を見送るという意見が多かったと捉えている。
- 〈岡委員〉 北小も同様である。
- 〈氏家会長〉 西中では学年ごとに集計しているが、南中はどうか。

- 〈笹川委員〉 「①なるべく早い時期に統合」は1年10名、2年7名、3年28名、「②学年2クラス程度になるまでは統合を見送り」は1年20名、2年14名、3年15名、「③統合に反対」は1年5名、2年7名、3年7名である。
- 〈岡委員〉 北小では学年ごとに集計しているが、学年ごとの規模がちがうし、一定の傾向が出ているわけではない。
- 〈氏家会長〉 旭小の「当事者でないといけない」という意見は、「両中学校の意見を尊重するので、特に中学校の統合に関する結論に対して反対しない」という意味でよいか。
- 〈鈴木委員〉 そのとおりである。
- 〈岡委員〉 アンケートにはどのような理由、意見が書かれていたか。
- 〈千ヶ崎委員〉 それぞれにもっともな意見が述べられていた。例えば、統合賛成派は、学校が活性化する、子どもが減っているのだから統合するのは当たり前、部活動で大会に出るのに選手を借りる必要がなくなる、今の中学生が卒業した後なら統合に賛成の小学生が入学してくるのでよい、千城台地区は小中学校の数が多すぎる、など。統合見送り派は、現状で落ち着いている、統合するとクラスが多くなり問題のある生徒に対する先生の対応がしやすい、学年2クラス以下になったら課題が出てくると思う、千城台地区に中学校が2校あってよい、など。統合反対派は、統合すると先生が目が行き届かなくなる、母校がなくなるのは嫌、中学校統合時期に受験がぶつかる、合唱コンクールなどの学校行事は現状でも盛り上がっている、など。その他は、どちらでもよい、子どもたちは特に統合を望んでいない、理由によって賛成・反対があり判断が難しい、などの意見があった。
- 〈笹川委員〉 6名の意見があった。統合賛成派は、専門教科外の授業を受け持っている教員がいて、授業がわからず塾にいつている、という意見があった。その他は、西中の意見と同様である。
- 〈山崎委員〉 南中は統合反対という結論がはっきり述べられたが、西中はどうなのか。
- 〈千ヶ崎委員〉 3つに意見が分かれている。その中では、とりあえず統合は見送るという意見が多いということである。行政の判断を仰ぐしかないという意見が強い。
- 〈氏家会長〉 教育委員会としては判断できるのか。
- 〈事務局〉 学校適正配置実施方針に基づいて教育委員会としては協議を進めている。数の論理でいえば統合した方がよいということになるが、地域の実情を踏まえて判断することになるので、地元の意見を尊重するというのが教育委員会のスタンスである。
- 〈千ヶ崎委員〉 私たちPTA会長は学校の意見をまとめる程度しかできず、個人的な意見は言えない。
- 〈時松委員〉 東小としては、統合反対に傾いている中学校側の意見を持ち帰って協議したい。同時に小学校統合に関する議論も進めたい。
- 〈栗山委員〉 「3小」ならば中学校は統合しなくてもよい。しかし、「2小」ならば中学校が統合しなければ無理である。各団体の結果を聞くと、中学校側の「学年2クラス程度になるまで統合を見送り」という意見を、中学校統合に賛成の東小と南小が持ち帰って報告し、意見をきけばよい状況だと思う。
- 〈大和久委員〉 学区にこだわらず、西中、南中を自由に選択できるという方法は実現不可能なのか。部活動が活気づかない現状で、例えば、西中に運動系のサッカー部をつくり、南中には文科系の部活動をつくるなどと学校ごとに特色をもたせれば、部活動の活性化につながるのではないかと。学区に関係なく部活動で中学校を選択できるという方法は不可能なのか。
- 〈事務局〉 部活動は保健体育課が担当しているが、現状では1校だと部活動が存続しない学校も多い。それを救済するために、他校との合同チームを作って大会に参加している。千葉市

では学区の弾力運用について学事課が認めているが、学区を変更する理由に部活動を認めていない。

- 〈栗山委員〉 中学校連携という形で、「サッカー部は西中、野球部は南中」と分けることはできないか。放課後の部活動のときにそれぞれの学校に移動すればよい。
- 〈事務局〉 両中学校がそんなに離れているわけではないので、合同練習を行うことは可能であろう。しかし、大会出場となると、合同チームを結成する場合には両校とも部員数が足りないときに限って認めるという規定がある。すべての部活で合同チームを作れる訳ではない。
- 〈氏家会長〉 強いチームにするために合同チームを作って、部活動を活性化させるということはどうできないか。
- 〈大和久委員〉 部活動を学区変更の理由として認めるよう、千城台地区学校適正配置の要望書に入れることはできないか。
- 〈事務局〉 部活動も教育活動の一環であり、学習指導要領の中に位置づけられている。千葉市では、部員数が足りない場合の救済措置として合同チームを認めるという方針で行っており、学区変更の理由として認めてしまうと、勝利至上主義により弊害が懸念される。他の地域では、部活動による学区変更を認めたことによる弊害が出てしまい、元に戻したというケースも出ている。
- 〈大和久委員〉 勝利至上主義ととるか、部活動の活性化ととるか難しい。以前の協議会で統合に反対する理由として「統合すると自分がレギュラーになれなくなる」という意見が出てきたが、それと似たような話になってしまっているようでさびしい気もする。
- 〈栗山委員〉 強いチームを作るために統合するわけではない。今の中学生が現状の部活動で満足しているのであればそれでよい。
- 〈岡委員〉 アンケート調査の中にも部活動の統合を望む意見があった。地域によってはそれを認めているところもあるようだ。千葉市の現状のルールを変えるはたらきかけは可能なのか。
- 〈事務局〉 現状では、人数が足りない学校同士のみ合同を認めるというルールであり、それを変えると弊害が大きいと考えている。
- 〈山崎副会長〉 両校の部活動では、全員が参加しているのか。
- 〈笹川委員〉 南中では、1～2年生に比べると、3年生は部活動の参加率はあまり良くない。それでも半分以上は加入している。
- 〈千ヶ崎委員〉 西中では、大半の生徒が部活動に加入しているが、途中でやめてしまう生徒もいる。
- 〈山崎副会長〉 南中では、各学年で2～3名程度の不登校生徒がいる。先生方の努力で学校に来れるようになって「うるさくてテストも受けられない」と訴える生徒もいる。小学校からずっと不登校という生徒も多い。中学校が統合すると、不登校生徒がさらに多くなることになり、先生方への負担も増えることが予想される。テストもできないほどうるさい時があるという声も聞いており、保護者は統合した場合の状況を心配している。
- 〈氏家会長〉 西小の理事会では6割の保護者が統合反対ということだが、それについてどのように分析しているか。
- 〈大和久委員〉 小学校と中学校の両方に子どもを持つ保護者にきくと、中学校統合に賛成だという報告をしてきたが、全体の意見を聞いてほしいということだったので、理事会の場で統合是非についての挙手を求めたらそのような結果になった。西小としては小中連携を進めることを最優先に提案しているので、統合するしないにかかわらず小中連携の取り組みはできる。なので、統合反対の意見についてはそれ以上深入りしなかった。

- 〈栗山委員〉 先ほども言ったように、中学校統合を見送るという意見を、南小と東小で持ち帰ることにすればよい。
- 〈時松委員〉 東小としては、統合しないと学区のねじれが解消できないことになるので、その点も再確認しなければならない。
- 〈栗山委員〉 協議会の意見に従うという声も聞かれるので、今回の意見を持ち帰ったとき、最終的にはそのような結論が出るかもしれない。もう一度確認するが、南小と東小以外の学校は中学校を統合しないという結論で報告してよろしいか。
- 〈氏家会長〉 絶対に統合しないというわけではなく、「学年2クラス程度になったら統合について考えた方がよい」という結論だと考える。
- 〈菅原議長〉 今の会長の見解でよいか。
- 〈一同〉 異議なし。(了承)
- 〈栗山委員〉 中学校が統合しなければ、B案の「2小」案はなくなるが、すぐにA案の「3小」案にするということではなく、「3小に統合」あるいは「小学校を統合しない」という案も含めて協議をしてよいか。また、統合に反対する場合、「他校は統合してでも、自分の学校だけは統合に反対である」という意見があるかを聞いてほしい。
- 〈氏家会長〉 そのような意見がどれくらいあるかを聞く場合は、今までの協議の経緯をしっかりと説明する必要がある。子どもの育成の観点から学年複数学級あるべきだという考えをもとに、喫緊の課題として小学校統合が必要だということが合意された。統合パターンとして51通りのシミュレーションから6通りに絞られ、最終的にA案(3小2中)とB案(2小1中)になった。「2小」案は学区の混乱が起こるという理由で「1中」にする必要があった。だから、「2中を残す」という結論になれば、「2小」案がなくなることになる。しかし、「3小」案で決定というのではなく、「3小」または「統合しない」という議論も必要だという論理もある。
- 〈栗山委員〉 学校のバランスは考えず、「他校は統合してもよいが、自分の学校は統合したくない」という強い意見がどれくらいあるかも確かめてもらいたい。
- 〈事務局〉 平成22年2月に協議会が始まり、平成24年3月には小学校の統合が必要であることで合意している。当時よりも小規模化が進んでいる現状を考えれば、小学校を統合するという合意事項を前提として協議を進めるべきではないか。
- 〈栗山委員〉 そこまで限定する必要はない。不合意という協議の進め方も示されている。
- 〈氏家会長〉 地域の方々には「A案とB案に絞られた」という報告をして現在に至っている。B案は現実的に実行性に乏しいという結論になったのでA案にするという論理は成り立つ。しかし、協議の途中で状況が変化したので、A案以外も再度議論するという考えもある。皆さんはどのように考えるか。
- 〈大和久委員〉 「中学校は統合しない」ということを前提に、「2中3小」案以外の意見も聞くというスタンスで各団体が持ち帰ればよいのではないか。
- 〈時松委員〉 持ち帰ったときに、「2中3小」案以外の具体的な代替案があるかどうかを協議委員以外のPTAの方々に求めるのは難しい面がある。事務局でA案以外の代替案を示してもらえるとよい。
- 〈氏家会長〉 A案、B案のメリット・デメリットを示した論点整理表はすでに示されている。
- 〈栗山委員〉 ただの組合せで議論をすることは避けようといってきた流れもある。
- 〈大和久委員〉 国は2016年度に小中一貫教育校、小中一貫型小中学校を制度化しようという報道がされている。小中連携の進めやすさという観点から統合の組合せを考えれば、おのずと

結論がでてくるのではないか。

- 〈事務局〉 前回の協議会でも話したように、中央教育審議会でも協議して今年末に答申を出し、その後、関連法令を改正するため来年の通常国会で審議することになる。どんなに早くても施行は平成28年ごろになることが予想される。しかし、小中の免許制度が異なることを考えると、小中一貫校の設立にはまだハードルが高い。小中連携は千葉市すべての学校で行われているが、行事面の連携に偏っており、これからは学習面の連携に広げていく段階である。その中で出てきた課題を検証した上で小中連携をさらに広めていくことになり、現段階ではまだ時間がかかる。
- 〈菅原議長〉 協議終了の時間になったので、本日の協議内容を各団体が持ち帰り、継続審議としたいがよろしいか。
- 〈一同〉 異議なし。(了解)
- 〈事務局〉 「中学校の統合は見送る」という方向性を南小と東小に持ち帰ってもらい、それに対する意見に対して全体会で協議することになる。また、「2中」にするという方向性を前提として、小学校の統合をどうするか各団体が検討してくるということになる。
- 〈栗山委員〉 「他校は統合しても、本校は単学校で残ってもよいから統合反対」という意見が南小にあるので、ぜひ他校にも同様の意見があるかを聞いてもらえるとありがたい。
- 〈笹川委員〉 中学校もまた意見を集約する必要があるのか。
- 〈菅原議長〉 中学校側の結論は出たので、本日の協議会の報告だけでよい。

議題(2) 次回開催日時・場所等

- 〈事務局〉 次回は分科会がよいか。全体会がよいか。
- 〈栗山委員〉 小学校の統合について意見をまとめるのであれば分科会がよい。中学校の統合についてとりあえず全体の意見をまとめるということであれば全体会でよい。
- 〈氏家会長〉 会長としては、分科会で煮詰めた意見を全体会で承認してもらってから、さらに分科会で議論を深めるという流れにしたい。喫緊の課題であった中学校統合について、「中学校の統合を見送る」という方向性で議論が進んでいる状況を全体会に報告し、その方向性を前提に小学校の具体的な協議に入ることを承認してもらってから、再度分科会を開くというプロセスを踏みたい。
- 〈栗山委員〉 小学校の統合に関する議論を深め、その方向性を出してから全体会を開けばよいのではないか。時間的な問題もある。
- 〈大和久委員〉 自治会側としては保護者側の意見をまとめてほしいということだった。
- 〈事務局〉 分科会の協議内容について書面により協議委員に報告するという方法もある。
- 〈栗山委員〉 本日の協議会の内容を南小に持ち帰ったとき、それでも「中学校統合」という結論になったら、全体会を開いても混乱を招く恐れがある。
- 〈笹川委員〉 分科会の報告をするだけならば、分科会のメンバーが全員出席する必要があるかも考える必要がある。現在はまだ分科会としての意見が集約されていない段階である。
- 〈氏家会長〉 例えば、短時間でもよいから全体会を行い、その後このメンバーが残って分科会をやるなどすればよいのではないか。全住民に理解してもらえる協議のプロセスを踏むには、全体会で今後の協議の方法性について確認することが必要である。
- 〈事務局〉 南小と東小が意見を持ち帰って学校全体の意見をまとめるには、どれくらいの期間が必要か。
- 〈時松委員〉 東小は12月に運営委員会があるので、それ以降に分科会を行うことは可能である。

- 〈栗山委員〉 南小は、次回の常任委員会で再びアンケートを作成し、アンケートを実施した後、1月の常任委員会で学校全体としての意見をまとめることを考えると、1月下旬から2月上旬ごろまでの時間をいただきたい。
- 〈時松委員〉 東小としては、どちらかというところ「3小1中」にこだわるというわけではなく、「1中でもよい」というニュアンスでPTA会長として引き継いでおり、新たにアンケートを実施することは考えていない。
- 〈事務局〉 1月28日（水）19：00から全体会を開催し、了解を得られれば、その後に分科会を行うということによろしいか。また、場所については、2階ホールの予約が埋まっており、1階セミナー室では全体会を行うには狭いという状況なので、開催場所を検討して後日お知らせすることによろしいか。
- 〈一同〉 異議なし。（了承）

（4）連絡

- ・本日の議事要旨（案）を作成し、委員の方々に郵送し確認していただく。期日までに回答がない場合は「修正なし」とさせていただきます。
- ・本日の協議結果を各委員がそれぞれの団体に持ち帰って報告し、意見を集約してきてほしい。

（5）会長挨拶（氏家会長）

本日の協議会では、一定の方向性が見出せたと認識している。南小は、今までの意見と異なる方向性が出ており、PTA会長としては、協議内容を持ち帰って報告し、再び学校全体の意見を集約するというのは大変な重荷だと思う。必要であれば私自身が積極的に説明に伺うなどの対応ができるので相談してほしい。東小は比較的弾力的な対応をしてきており、今後も柔軟な対応ができそうだが、何かあれば私としても積極的にお手伝いしたい。両中学校のPTA会長には、それぞれアンケートを実施し、手順をつくして結論を導いてくださったことに敬意を表したい。事務局としても、2回の分科会の協議内容について丁寧にまとめて、全体会を開催する主旨等も含めて報告できるような資料を準備してほしい。また、中学校の統合を見送るとなると、両中学校の現状を踏まえた活性化策を考える必要がある。教育委員会としても他校の活性化策について調査し、そのデータを各学校に提供してほしい。もうすぐ年末になるが、皆様のご健勝をお祈りしたい。次回もよろしくお願いする。